



(平成 年 月 日 見学)

## 博物館学習シート (茶の種類と伝播)

中学生用：お茶の学習

このシートは、博物館の展示のうち茶の学習と関係の深い資料について、みなさんが自分で調べるときに  
使います。

疑問に思ったことや、よくわからないことは博物館の人に聞いたり、帰ってから各自で調べてみましょう。  
鉛筆と下敷きを用意しましょう。(ペンやマジックなどは持ち込んではいけません。)

### ～ 海から ～

《アジアからヨーロッパへ》

- 1 初めてヨーロッパにお茶が伝えられたのはいつごろ、  
どこの国からどこの国へだったでしょうか。

- 2 イギリスで18世紀の中頃から紅茶  
が飲まれるようになるとお茶を飲む習  
慣が一般化されていきました。そして、  
お茶が生んだ文化としてさまざまな茶  
器が生みだされました。右の枠の中に  
気に入った茶器をスケッチし、特徴を  
書き出してみましょう。

《中国から日本へ》

- 1 日本にお茶の作り方が伝わってきた時期には大きく2つあります。それぞれいつごろか、調べ  
てみましょう。

ごろ

と

ごろ

- 2 日本の庶民にお茶が普及しだしたのはいつごろでしょうか？

時代ごろ

### ～ 陸から ～

《中国からインドへ》

- 1 インドで飲まれているチャイとはどんなお茶でしょうか？

-----

《中国からロシアへ》

- 1 20世紀以降、ロシアで主に飲まれているお茶は次のどれでしょうか？  
紅茶                      ウーロン茶                      日本茶

- 2 ロシアではお茶にどんなものを入れて飲むのが好まれていますか？探してみましょう。

-----

## ちょっと一息

### 茶の賛否をめぐる

茶がヨーロッパへ伝わった時代、茶はたいへん高価なもので一部の人々しか飲むことができませんでした。しかし普及が進むと、17世紀後半ごろから「茶」という新しい飲み物について、医学者たちは賛否をめぐる盛んに意見を戦わせるようになりました。茶が人体にたいへん有益であると述べる者がいる一方、茶は健康に悪影響を与えると唱える者もいたのです。当時のヨーロッパの人々にとって、茶はまだまだ謎に満ちた飲み物であり、その製造法はおろか、原料である「茶」自体も未知の植物であり、好奇の対象ともなっていました。



『タバコ、茶、コーヒー、チョコレート論』  
a Treatise on Tobacco, tea, Coffee, and Chocolate  
シモン・パウリ著

1746年刊（原語版は1665年刊）

この本は、ドイツ人の医者であり植物学者だった著者が、1665年に出版した本の英訳初版本です。著者は「茶」という植物が草なのか木なのか、どの植物種に属するのか、ヨーロッパには「茶」はないのか、あるいは茶に代わる植物はないのかといった内容を議論しながら、結局のところ茶という飲み物は、遠路悪条件下を運ばれてくるために品質が劣化しており、ヨーロッパの風土にも合わないため、ヨーロッパ人はもともと飲んでいた飲み物を飲むべきであるなどと述べています。



『茶の博物誌』  
the Natural History of the Tee-tree  
J.C.レットサム著

1772年

本書は、植物としての茶や、茶の歴史、種類などについて幅広く紹介した本です。著者は、イギリス人の

医者で、イギリスで茶に関する医学的な研究を初めて行った人物とされています。本書では茶の効用を賞賛しており、茶に関する様々な実験の結果なども記されています。

### 見学を終えて

- ・ 博物館の見学をしてあなたはどの展示物が一番印象に残りましたか。
- ・ それはどの時代ですか。  ・ 印象に残った理由は何ですか。
- ・ 見学をしていて、疑問に思ったことはありませんでしたか。  ある  ない
- ・ それはどのようなことですか。

中学校 年 組 名前